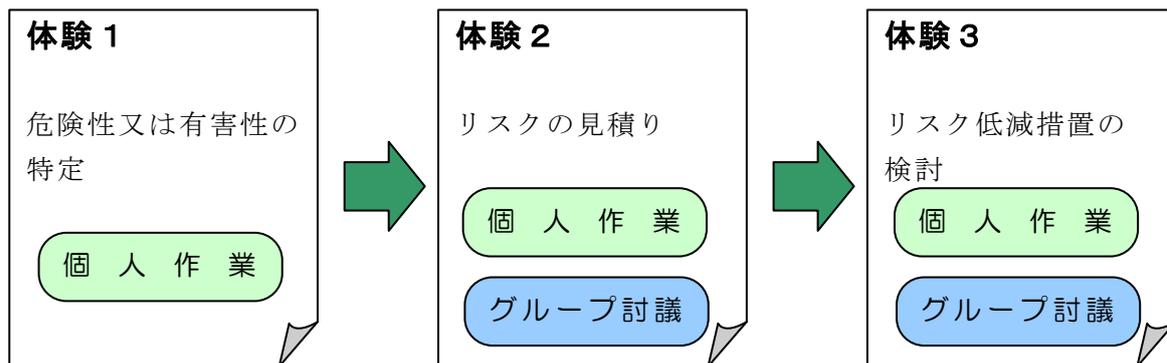


第5章

リスクアセスメントの 体 験

リスクアセスメントの体験シナリオ

ここでは、これまで学んだリスクアセスメントについて、下記の課題（イラスト）を例に体験してみましょう。体験していただく内容は、リスクアセスメントのステップのうち3つのステップです。



課題



体験1 危険性又は有害性の特定

〔個人作業〕



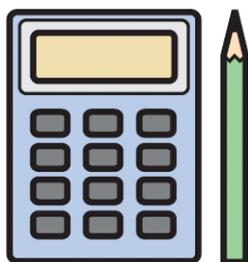
前ページの課題（イラスト）をみて、どんな危険性又は有害性があり、それによって、どんな災害が発生するのかを想定しながら、次の①～⑤のキーワードを用いて、危険性又は有害性により発生のおそれのある災害を表現します。

イラストに隠された危険の芽と発生のおそれのある災害は、1つや2つだけではありません。イメージを膨らませて発生しそうな災害を特定しましょう。

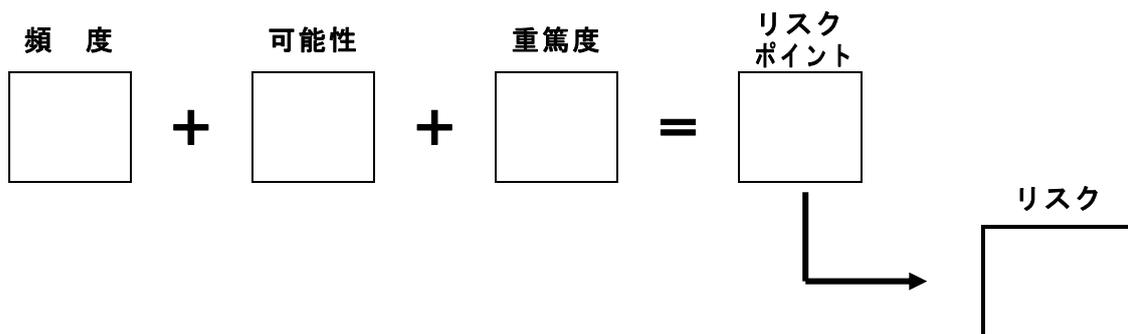
- | | |
|----------------------|--------------------------------|
| ① 危険性又は有害性 | 「～に、～と」 |
| ② 労働者 | 「～が」 |
| ③ 危険性又は有害性と労働者が近づく状態 | 「～するとき、～するため」 |
| ④ 安全衛生対策の不備 | 「～なので」 |
| ⑤ 負傷又は疾病の状況 | 「(事故の型) + (体の部位)を
～になる、～する」 |

体験2 リスクの見積り

〔個人作業〕



体験1で特定されたリスクについて「① 労働者が危険性又は有害性に近づく**頻度**」「② 危険性又は有害性に近づいたときに、回避できない**可能性**」「③ 危険性又は有害性によって発生する、想定される最も大きな負傷又は疾病の**重篤度**」という3つの要素をそれぞれ評価し、その数値結果による『加算方式』でリスクを見積ります。



頻 度	点数	内 容 の 目 安
頻 繁	4	10回程度に1回
時 々	2	50回程度に1回
ほとんどない	1	100回程度に1回

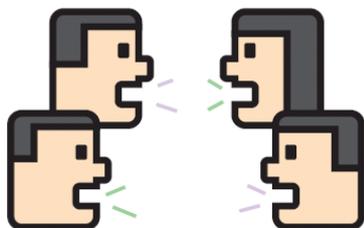
可 能 性	点数	内 容 の 目 安
極めて高い	6	危険に気がついたとしても、誰もが回避できない
高 い	4	危険に気がついたとき、回避できないことが多い
低 い	2	危険に気がつければ、回避できることが多い
極めて低い	1	危険に気がつければ、ほぼ回避できる

重篤度	点数	災 害 の 程 度・内 容 の 目 安
致命傷	10	死亡や永久的労働不能につながるけが 障害が残るけが
重 傷	6	休業災害（完治可能なけが）
軽 傷	3	不休災害（医師による措置が必要なけが）
軽 微	1	手当後直ちに元の作業に戻れる軽微なけが

リスク	点 数 (リスク値)	優 先 度
IV	12～20	直ちにリスク低減措置を実施する必要がある。
III	9～11	速やかにリスク低減措置を実施する必要がある。
II	6～8	計画的にリスク低減措置を実施する必要がある。
I	5以下	必要に応じてリスク低減措置を実施する。

〔点数が高いほど優先度が大〕

〔グループ討議〕



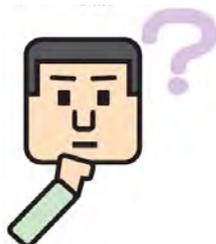
〔個人作業〕で見積ったリスクの見積り結果について、グループ全員が1人ずつ発表します。

発表の結果、グループ内の意見が異なったときは、3つの要素の点数についてグループで討議し、意見の統一を図ります。

この時、決して平均値をとったり、多数決で決めないように全員が納得いく点数になるように討議します。やむを得ず全員一致が得られない時は、点数の一番大きい値をグループの結果としてください。

体験3 リスク低減措置の検討

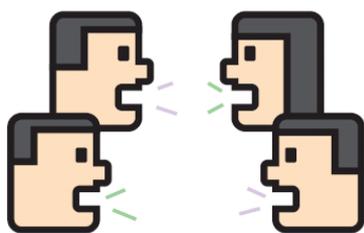
〔個人作業〕



危険性又は有害性により発生のおそれのある災害について、どのようなリスク低減措置が必要かその案を考えます。リスク低減措置案は、可能な限りの優先順位の高いものから考えましょう。

また、考えたリスク低減措置案を実施した場合の予測見積りについても、もう一度、見積もってください。

〔グループ討議〕



〔個人作業〕で考えたリスク低減措置案についてグループの全員が1人ずつ発表します。

ここでは、自分で気付かなかった低減措置で感心したものを追記してください。また、より優先度の高い低減措置案が考えられたか意見交換してください。

(注)

実際の現場では、リスクアセスメント推進者も一緒に参加し、費用対効果も検討した上で、作業者の合意を得ながら決定することが望ましいです。

体験1, 2 記入用紙

事業場名	
氏名	

グループメンバー名					

体験1 記入欄

体験2 記入欄

工具、機械設備名	危険性又は有害性により発生のおそれのある災害 ① 危険性又は有害性 「～に、～と」 ② 労働者 「～が」 ③ 危険性又は有害性と労働者が近づく状態 「～するとき、～するため」 ④ 安全衛生対策の不備 「～なので」 ⑤ 負傷又は疾病の状況 「(事故の型)+(体の部位)を～になる、～する」	リスクの見積り				
		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク
(記入例) リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、床にこぼれた油に足をとられ、滑って転倒し腰を強打する。					

表1 頻度の区分と評価の点数

頻度	点数	内容の目安
頻	4	10回程度に1回
時	2	50回程度に1回
ほとんどない	1	100回程度に1回

表2 可能性の区分と評価の点数

可能性	点数	内容の目安
極めて高い	6	危険に気がついたとしても、誰もが回避できない
高い	4	危険に気がついたとき、回避できないことが多い
低い	2	危険に気がつけば、回避できることが多い
極めて低い	1	危険に気がつけば、ほぼ回避できる

表3 重篤度の区分と評価の点数

重篤度	点数	災害の程度・内容の目安
致命傷	10	死亡や永久的労働不能につながるけが 障害が残るけが
重傷	6	休業災害(完治可能なけが)
軽傷	3	不休災害(医師による措置が必要なけが)
軽微	1	手当後直ちに元の作業に戻れる軽微なけが

表4 リスクの優先度

リスク	点数 (リスク・イント)	優先度
IV	12~20	直ちにリスク低減措置を実施する必要がある。
III	9~11	速やかにリスク低減措置を実施する必要がある。
II	6~8	計画的にリスク低減措置を実施する必要がある。
I	5以下	必要に応じてリスク低減措置を実施する。

体験3 記入用紙

事業場名	
氏名	

グループメンバー名					

体験3 記入欄

工具、機械設備名	危険性又は有害性により発生のおそれのある災害	リスクの見積り					リスク	リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り					備考 (残留リスク等について)
		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク			頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、床にこぼれた油に足をとられ、滑って転倒し腰を強打する。	1	2	3	6	II	<ul style="list-style-type: none"> 作業前ミーティング時の注意喚起 厳禁事項のパネル表示 床に油がこぼれたら直ぐに拭き取る 	1	1	3	5	I		
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、補助者がよそ見をした状態でリフトを下げたので、車体に挟まれ死亡する。	1	6	10	17	IV								
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、上を向いたまま後ろへ下がったため、リフト下部の開口部に足が落ちて足を骨折する。	2	4	6	12	IV								
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、車両の下から落ちたゴミが目に入り、目を損傷する。	2	4	3	9	III								
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、床に適当に置いていた部品・道具につまずき、転倒して足を捻挫する。	1	2	3	6	II								
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、車両のリフトアップポイントがズレていたため、バランスを崩して前に落下した車両に挟まれ死亡する。	2	4	10	16	IV								

記入例

工具、 機械設備名	危険性又は有害性により発生のおそれのある災害	既存の災害防止対策	リスクの見積り					リスク低減措置案	措置案想定リスクの見積り					備考 (残留リスク等について)
			頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク		頻度	可能性	重篤度	合計点数	リスク	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、床にこぼれた油に足をとられ、滑って転倒し腰を強打する。	安全教育 (整理整頓の徹底) (安全靴の着用)	1	2	3	6	II	・作業前ミーティング時の注意喚起 ・厳禁事項のパネル表示 ・床に油がこぼれたら直ぐに拭き取る	1	1	3	5	I	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、補助者がよそ見をした状態でリフトを下げたので、車体に挟まれ死亡する。	整備マニュアル (合図の確認)	1	6	10	17	IV	・光電スイッチによるはさまれ防止装置の設置	1	1	1	3	I	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、上を向いたまま後ろへ下がったため、リフト下部の開口部に足が落ちて足を骨折する。	安全教育 (安全確認の徹底)	2	4	6	12	IV	・開口部を床面とフラットにするリフトに変更	1	1	1	3	I	
								・リフトアップ後、開口部をアルミ板で塞ぐ	1	2	6	9	III	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、車両の下から落ちたゴミが目に入り、目を損傷する。	整備マニュアル (ゴーグル系保護メガネの着用)	2	4	3	9	III	・作業前ミーティング時の注意喚起 ・遵守事項のパネル表示	1	2	3	6	II	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、床に適当に置いていた部品・道具につまずき、転倒して足を捻挫する。	安全教育 (整理整頓の徹底)	1	2	3	6	II	・作業前ミーティング時の注意喚起 ・厳禁事項のパネル表示	1	1	3	5	I	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、車両のリフトアップポイントがズレていたため、バランスを崩して前に落下した車両に挟まれ死亡する。	整備マニュアル (車両重心位置の確認)	2	4	10	16	IV	・床面昇降式リフト(ピット式)に変更	1	1	1	3	I	
								・リフトアップポイント一覧表の明記 ・カーメーカーの情報収集	1	4	10	15	IV	
リフト	作業者が、車両の下で点検をしているとき、車両のリフトアップポイントがズレていたため、バランスを崩して前に落下しそうな車両を押さえようとして挟まれ死亡する。	整備マニュアル (車両重心位置の確認)	2	6	10	18	IV	・床面昇降式リフト(ピット式)に変更	1	1	1	3	I	
								・リフトアップポイント一覧表の明記 ・カーメーカーの情報収集	1	4	10	15	IV	
リフト	作業者が、車両の下で整備をしているとき、高温部に手袋なしで作業を行ったので、手を火傷する。	整備マニュアル (防護手袋の着用)	2	2	3	7	II	・作業前ミーティング時の注意喚起 ・遵守事項のパネル表示	1	2	3	6	II	
リフト	作業補助者が、リフトの操作レバーを回すとき、力を入れすぎたのでレバーから滑りぬけて、指を打撲する。	整備マニュアル (滑り止め付き手袋の着用)	1	4	3	8	II	・作業前ミーティング時の注意喚起	1	2	3	6	II	